

# チャペル週報

No.12

2018.6.25 ~ 6.29

いまだかつて神を見た者はいません。  
わたしたちが互いに愛し合うならば、  
神はわたしたちの内にとどまってくださり、  
神の愛がわたしたちの内ですべて全うされているのです。  
(ヨハネの手紙一 4章 12節)



吉岡記念館とランバス記念礼拝堂

関西学院宗教センター

---

☆ チャペル・スケジュール ☆

---

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

---

6月25日(月) 神 山本 俊正 (商学部宗教主事)  
経 経済と人間－経済学を学ぶ心－⑧ 田畑 颯 (経済学部教授)  
人 小西 砂千夫 (人間福祉学部教授)  
理 中井 珠恵 (市立川西病院 スピリチュアルケア・カウンセラー)  
聖和 聖書物語「王がほしい」

---

6月26日(火) 神 Christian Triebel (神学部助教)  
文 音楽チャペル 青木 美緒 (ソプラノ、経済学部教務補佐)  
羽根田 操 (ピアノ)  
社 人権を考えるチャペル 武田 丈 (人権教育研究室室長)  
法 ボランティア活動支援センター  
経 経済と人間－経済学を学ぶ心－⑨ 久保 真 (経済学部教授)  
商 音楽チャペル マンドリンクラブ  
理 上内 鏡子 (神戸イエス団教会牧師)  
総 音楽チャペル パロックアンサンブル  
教 林 昌利 (日本基督教団 芦屋三条教会牧師)

---

6月27日(水) 神 私の好きな聖書のことば⑩ 土井 健司 (神学部教授)  
社 私にとって大切なことば② Vivian Bussinguer-Khavari (社会学部准教授)  
法 NPO法人かめのすけ  
経 経済と人間－経済学を学ぶ心－⑩ 桑原 秀史 (経済学部教授)  
商 Chapel in English Curtis Rigsby (宣教師)  
人 嶺重 淑 (宗教主事)  
国 音楽チャペル ゴスペルクワイア "P.O.V."  
理 宗教総部  
総 村瀬 義史 (宗教主事)  
教 梶原 直美 (宗教主事)

---

6月28日(木) 神 金 元基 (神学研究科M1)  
文 田淵 結 (院長)  
社 私にとって大切なことば③ 森 久美子 (社会学部教授)  
法 宗教総部 「邑久光明園訪問報告」  
商 島貫 香代子 (商学部准教授)  
国 Chapel in English Eun Ja Lee (宣教師)  
総 音楽チャペル 関西学院室内合奏団  
聖和 家山 華子 (日本基督教団 三木教会牧師)

---

6月29日(金) 院 山本 俊正 (商学部宗教主事)  
神 井上 智 (神学部助教)  
文 Chapel in English Andreas Rusterholz (宗教主事)  
人 音楽チャペル 聖歌隊  
理 成田 いうし (日本基督教団 磐上教会牧師)

---

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂 (西宮上ヶ原)  
6月29日(金) 中学部のために 安田 栄三 (中学部長)

---

# ‘Spem in alium’

Daniel Gallimore

数年前、私はブラジル・ベロホリゾンテ市で開催された国際翻訳学会に参加しました。南米訪問は初めてであって、こうした多言語学会の雰囲気に至福の時と感じました。学会後の週末、私は開催者が企画したツアーにも参加して、イニョチンというジャングルの中の野外アートセンターへ出かけました。その豊かな緑、池やインスタレーション作品の中に身をまかせ、学会のストレスから解き放され、ゆっくりできる時間をもち喜色満面でありましたところ、その散歩中に私はある音が不意に聞こえ驚きました。これは昔からよく知っている音色で、真っ白のギャラリーに入ると、16世紀のトマス・タリス作曲の「40声のモテット」の各声がそれぞれスピーカー40台から出ている荘厳な音楽だったのです。タリスの「40声のモテット」はイギリス・ルネッサンス期の一番美しい作品だと言われていますが、私が17歳ぐらいに初めて聴いたものです。半時間以上この美しい教会音楽に心酔して聴いていました。自国のイギリス、イギリスの大聖堂少年聖歌隊、そして同じ時代のシェイクスピアのことを思い浮かべました。シェイクスピア劇の登場人物も時に40人程になります。そして今回の学会発表ではやはり自分の研究分野であるシェイクスピア劇の日本語翻訳を論じました。

ラテン語のタイトル ‘Spem in alium’ は「我、汝の他に望みなし」ということですが、これは全能の神の神秘だけではなく、より一般的な意味では我々が日常生活で頼る「他者」も意味するのではないかと思えます。何故なら「他者」は親しい人でも全く知らない人でも、神の愛を日常の我々がその「他者」との人間関係を通してはっきり知ることができるからです。また、キリスト教の立場から考えると、タリスのモテットは私が参加した翻訳学会の何らかの理想のイメージとなったかもしれません。つまり、翻訳研究は世界の様々な言語的、文化的多様性を尊重しながら、同時に翻訳によって異文化理解を促進する活動だとも言えます。学会で話された言語数も40ぐらいだったそうですが、我々参加者たちは必ずしも「声を合わせて」歌わなかったとしても、学術的な知識と理解への共同追究に携わっていたに違いありません。

(文学部教授)

## ●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローチタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。

【どなたでもご自由にご参加ください。】

(17:50~18:20 1405教室)

6月主題:「インクルーシブな世界を目指して」

6月28日(木) 大宮 有博(法学部宗教主事)

7月主題:「学期末を迎えて」

7月5日(木) 嶺重 淑(大学宗教主事)

7月12日(木) 舟木 讓(宗教総主事)

7月19日(木) Ruth M. Grubel(社会学部教授、宣教師)

## ●関西学院会館の日曜礼拝

授業期間中の第二・第四日曜日(原則)に、教職員と学生有志による礼拝が行われます。

どなたでもご自由にご参加ください。

7月8日(日) 10:00~11:00

関西学院会館ベーツチャペル

## ●第213回ランバス演奏会 リコーダー・アンサンブル「レアル」リサイタル

「レアル」は1997年に関西学院大学応援団総部吹奏楽部O・B・O・Gを中心に結成。ランバス演奏会への出演は21回目を迎えました。バロック音楽を中心に古楽からジャズに至るまで幅広いジャンルの音楽をレパートリーに活動しています。

と き: 9月26日(水) 17:30開演

と ころ: ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

<入場無料>

## ●オルガン音楽の泉 2018 Fall semester

パイプオルガンの響きに憩うお昼のひとつ、どなたでもご自由にお楽しみください。

第28回 10月12日(金) 西山 聡子(本学オルガン講師)

第29回 11月16日(金) 坂倉 朗子(本学オルガン講師)

第30回 12月5日(水) 桑山 彩子(京都カトリック河原町教会オルガニスト)

いずれも12:50~13:20[開場12:40予定]

と ころ: 関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催: 宗教センター

## ◆CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

## ◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

## ◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室ははじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。